



～赤ちゃんの泣き声を温かく見守っている人たち、集まれ!～

WEラブ赤ちゃんプロジェクト

10年の軌跡

Woman.e~~x~~cite

2026年10月 エキサイト株式会社

ごあいさつ／数字で見る10年

「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」は、2026年10月10日に10周年を迎えます。

「赤ちゃんは泣くのがしごと。その泣き声、私は温かく見守っています」——そんな想いに共感し、賛同してくださったみなさま、そしてプロジェクトに賛同いただいている自治体・企業・団体のみなさまに、心より御礼申し上げます。

2016年に小さな一歩から始まったこのプロジェクトは、いまでは11万件を超える賛同と、1万件を超える温かなコメントに支えられ、全国30以上の自治体、約300の企業・団体へと広がりました。これからも、赤ちゃん子育て中の方々をやさしく見守る社会に向けて、一歩ずつ歩んでまいります。

ウーマンエキサイト編集部「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」一同

■ 数字で見る10年

11万 件超 個人の賛同数	1万 件超 寄せられた賛同コメント	30 以上 賛同自治体
約300 賛同企業・団体	200万 枚以上 ステッカー作成枚数	14 県 知事同盟による一斉賛同（2018年）
30 番組以上 テレビでの紹介	100 媒体以上 新聞への掲載	4 回 教科書への掲載

※2026年10月時点。ステッカー作成枚数・メディア掲載数・教科書掲載回数は2026年4月時点の社内資料による

はじまりのストーリーと10年の歩み

「見えない応援」を、目に見える形に

一人では何もできない、1歳前後の小さな赤ちゃん。電車やバス、飲食店の中で泣きやまないわが子に、慌ててしまうママやパパは少なくありません。けれど、小さな赤ちゃんが泣いてしまうのは自然なこと。そして周囲には、その泣き声を温かく見守っている人もたくさんいるはずです。

そんな人たちがいることを、目に見える形にしたい。発起人であるエッセイスト・紫原明子さんの想いをきっかけに、ウーマンエキサイトは2016年5月、「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」をプレオープンしました。ママだけでなく、社会全体が赤ちゃんに“愛”を向けることで、よりよい子育て環境が生まれるかもしれない——プロジェクト名には、そんな願いが込められています。同年10月10日には公式サイトを開設し、プロジェクトを正式に立ち上げました。



プロジェクトの発起人、エッセイスト・紫原明子さん

そうして生まれたのが「泣いてもいいよ！」ステッカーです。「焦らなくても、大丈夫！ その泣き声、わたしは気にしませんよ」という意思表示をすることで、ママやパパの気持ちが少しでも楽になるように。スマートフォンやパソコン、バッグなどに貼れるステッカーは、多くの方の共感を集めてきました。



プロジェクトページと「泣いてもいいよ！」ステッカー

■ 10年の歩み ※一部抜粋

時期	出来事
2016年5月	発起人・紫原明子さんの想いをきっかけに、ウーマンエキサイトが「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」をプレオープン
2016年10月10日	公式サイトを開設し、正式に立ち上げ。「泣いてもいいよ！」ステッカーの展開を開始
2016年12月	賛同企業の募集を開始
2017年3月	賛同企業の店舗で、ステッカーの無料配布を開始
2017年11月	三重県が行政として初めて賛同 方言版ステッカー「泣いてもええんやに！」を制作
2017年12月	賛同数2万人突破を記念してオリジナルキーホルダーを制作し、限定100名にプレゼント
2018年5月	「日本創生のための将来世代応援知事同盟サミットinみやぎ」で、14県が一斉に賛同を表明
2018年8月	キッズデザイン賞を受賞
2018年11月	「いい育児の日」に合わせ、14県の方言版ステッカーの配布を各県で開始
2018年11月	賛同数3万人突破記念の缶バッジを限定制作
2019年6月	世田谷区が東京都内で初めて賛同。世田谷版ステッカー75,000枚を配布
2019年12月	千葉県内の自治体で初めて佐倉市が賛同
2021年11月	「京都府子育て環境日本一推進会議」（54団体）が賛同 京都限定の「泣いてもかましまへん！」ステッカーを作成
2022年4月	文部科学省検定 家庭科の教科書に「泣いてもいいよ！」ステッカーが掲載
2022年8月	京都府オールトヨタ、府内全96店舗で「泣いてもかましまへん！」ポスター掲示やステッカーを配布
2022年9月	ビオフェルミン製薬株式会社が賛同を発表
2024年5月	「京都府子育て環境日本一推進会議」の一員であるダイードリコ株式会社とコラボ。おむつも購入できる音声機能付自販機を設置
2024年10月	福岡県筑後市の取り組み（店員・駅員のバッジ着用）がテレビ・読売新聞で紹介
2025年5月	京都サンガF.C.が「WEラブ赤ちゃんアンバサダー」に就任。選手が出演する応援動画も制作
2026年4月	賛同数が10万件を突破（4月17日時点で103,823件）
2026年7月	公式Instagramを開設
2026年7月	スバル近畿の全61店舗に「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」ポスター掲出
2026年8月	日本生命「NISSAYペンギンプロジェクト」が賛同
2026年8月	赤ちゃんの泣き声AIアプリ「あわベビ」が賛同
2026年8月	完全個室ベビーケアルーム「mamaro」のTrim株式会社が賛同
2026年9月	京都府内のベビーケアルーム「mamaro」に「泣いてもかましまへん！」デザインを提供
2026年10月	公式Instagramで「泣いてもいいよ！」エピソードマンガの公開を開始
2026年10月9日	10周年記念プレゼントキャンペーンを開始
2026年10月10日	プロジェクト10周年

CHAPTER 03

みんなの「泣いてもいいよ！」の声

プロジェクトページには、この10年間で1万件を超える賛同コメントが寄せられています（2026年10月8日時点で11,613件）。その一部をご紹介します。



40代・女性

電車の中で大泣きする赤ちゃんをあやしながら、停車するたびに車両移動するママをみかけて切なくなりました。大丈夫、ここにいていいんだよ。赤ちゃんが泣くのは当たり前！と伝えたいです❤️



50代・女性

私も昔は子育てしてたときに多くの人に助けてもらいました。今度は自分の番だと思っています。



30代・男性

赤ちゃんは泣くのが仕事、僕達大人は助け合うのが仕事。泣かない赤ちゃんはいないし、絶対自分も泣いていたはず。優しい気持ちで見守りましょう！



60代以上・男性

とっくに自分の子供たちは独り立ちしてそれぞれの人生を歩んでいます。でも、この子たちが赤ちゃんの頃を思い出すと、泣きたく（いえ実際にほろりと）なるほど、愛おしさで胸がいっぱいになります。



30代・女性

朝の通勤電車で、たまたま赤ちゃんと乗り合わせるとほっこり幸せな気持ちに。混んでいる電車は大人でも不快なのだから、赤ちゃんが泣いちゃうのは当たり前！その素直な生命力をみんなで見守りたいです。



30代・女性

「赤ちゃんも、自分がなぜ泣いているのかわからない」って、最近知りました。だから、多少は泣いても仕方ないのだとみんなが大らかになるといいですね。

※プロジェクトページに寄せられた賛同コメントより（原文のまま、一部抜粋）

■ みんなのアイデアから生まれたオリジナルグッズ

プロジェクトでは「泣いてもいいよ！」ステッカーのほかにも、さまざまなオリジナルグッズを制作しています。



オリジナルグッズ第一弾「泣いてもいいよ！」ステッカー

プロジェクトページ上でアイデアを募集し、みなさまから寄せられた声を形にしてきました。「交通機関でポスターやステッカーを貼り出してほしい」という声からは、賛同企業に掲示いただくポスターを制作。

「マタニティマークのように、キーホルダーや缶バッジもほしい」という声からは、賛同数2万人突破記念のキーホルダー、3万人突破記念の缶バッジを限定で制作しました。



賛同企業向けポスター



賛同数2万人突破記念キーホルダー



賛同数3万人突破記念缶バッジ

CHAPTER 04

社会への広がり

プロジェクトの取り組みは、立ち上げ当初から現在に至るまで、テレビ30番組以上、新聞100媒体以上で紹介されてきました。2018年には、キッズデザイン賞も受賞しています。イベントでのステッカー配布や教科書への掲載、企業・団体の賛同など、活動の場は社会のさまざまな場所へと広がっています。

■ 新聞・Webメディア



東京新聞 夕刊1面に掲載



産経新聞、読売新聞、朝日新聞をはじめ全国100媒体以上に掲載



Yahoo!ニュース トップに掲載



日経DUALに掲載

このほか、日本経済新聞（世田谷区の取り組み）、産経ニュース・時事通信（14県一斉賛同）、読売新聞オンライン（福岡県筑後市の取り組み）などに掲載されました。

■ テレビ・ラジオ・動画

テレビ	NHK「あさイチ」
	日本テレビ「news every.」
	フジテレビ「みんなのニュース」（出演）
	NHK「首都圏ネットワーク」、NHKニュース（世田谷区の取り組み）
	東日本放送「Jチャンネル」（14県一斉賛同）
	福岡放送「めんたいワイド」（福岡県筑後市の取り組み）
ラジオ	TBSラジオ「サステバ」
動画	京都府公式YouTube：京都サンガF.C.の選手がプロジェクトを応援する動画

このほか、多数のテレビ番組・ラジオ番組で取り上げられました。

■ イベントでの展開

イベント・場所	取り組み
映画「いただきます」上映会	会場でステッカーを配布
プレミアムコンサート	フォトブースを設置し、ステッカー2,000枚を配布
代々木公園のママイベント「beautiful mother park」	会場でステッカーを配布

このほか、飲食店や手芸店の店頭でもステッカーを配布してきました。

■ キッズデザイン賞2018を受賞

2018年には、子どもや子育てに配慮したすぐれた製品・サービス・活動などを顕彰する「キッズデザイン賞」を受賞しました。社会全体で子育てを見守るという取り組みそのものが、評価された形です。

■ 教科書への掲載

中高生向けの家庭科の教科書に、プロジェクトの紹介や方言版ステッカーなどが掲載されています（高校家庭科教科書「家庭基礎 自立・共生・創造」など）。これまでに、複数の出版社の教科書に計4回掲載されています。



中学校 技術・家庭（家庭分野）の教科書



方言版ステッカーの掲載ページ

■ 企業・団体への広がり

企業・団体の賛同も広がり、2026年時点で約300の企業・団体にご賛同いただいています。

賛同企業・団体一覧：<https://woman.excite.co.jp/welovebaby/partners/>

自治体への広がり

2017年に三重県が行政として初めて賛同したことを皮切りに、プロジェクトの輪は全国の自治体へと広がりました。現在、全国30以上の自治体が賛同し、方言を生かしたご当地ステッカーやポスターの制作、交通広告、店舗でのステッカー配布、子育て支援に関わる方々のバッジ着用など、それぞれの地域に合わせた形で「泣いてもいいよ！」のメッセージを発信しています。

■ 三重県（行政として初の賛同、2017年）



行政として初めてプロジェクトに賛同した三重県は、2017年、三重の言葉で「泣いてもいいよ」を伝える「泣いてもええんやに！」ステッカーを制作しました。ここから、各地の方言を生かしたご当地ステッカーの取り組みが始まりました。

■ 将来世代応援知事同盟の14県が一斉に賛同（2018年）

2018年5月31日に開催された「日本創生のための将来世代応援知事同盟サミットinみやぎ」で、出席した知事らがプロジェクトの横断幕を掲げ、14県が一斉に賛同を表明しました。各県の方言で「泣いてもいいよ！」を表現したステッカー、チラシ、ポスターを制作し、その取り組みは産経ニュース、時事通信、東日本放送「Jチャンネル」などでも報じられました。同年11月19日の「いい育児の日」からは、14県の方言版ステッカーの配布が各県で始まりました。



「将来世代応援知事同盟サミットinみやぎ」での一斉賛同セレモニー

賛同14県：岩手県、宮城県、福島県、茨城県、長野県、三重県、滋賀県、鳥取県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、高知県、宮崎県

14県版の制作物



14県版チラシ（表）



14県版チラシ（裏）



14県版ポスター「14県の方言で応援しています!」

■ 全国に広がる方言ステッカー（20自治体）

2017年の三重県に始まり、2018年の14県一斉賛同をきっかけに各県へ広がった、地域の言葉で「泣いてもいいよ!」を伝える方言ステッカー。その後もほかの自治体へと広がり、現在は20自治体の方言ステッカーがあります。地域の言葉で届けることで、より身近なメッセージとして親しまれています。



プロジェクトページ「全国に広がる『泣いてもいいよ!』ステッカー」

20自治体の方言ステッカー一覧



北海道札幌市厚別区

「泣いてもいいしょ!」



岩手県

「泣いてもかまあねえよ!」



宮城県

「泣いてもいがすと〜!」



福島県

「泣いてもさすけね!」



茨城県

「泣いてもいいよ〜」



山梨県

「泣いてもいいさよ!」



長野県

「泣いてもいいじ!」

(中信地域)



愛知県豊橋市

「泣いてもいいに!」



三重県

「泣いてもええんやに!」



滋賀県

「泣いてもかまへんよ!」



京都府

「泣いてもかましへん!」



鳥取県

「泣いてもいいだで!」



岡山県

「泣いてもええんでえ!」



広島県

「泣いてもええんよ!」



島根県

「泣いてもいいけんね!」

(東部地域)



山口県

「泣いてもええっちゃ!」



徳島県

「泣いてもええんじょ!」



高知県

「泣いたちかまんきね!」



福岡県筑後市

「泣いてもよかよ!」



宮崎県

「泣いてもいっちゃが!」

※自治体の並びは北から順。

■ 世田谷区（東京都内初の賛同）

2019 年6月～ 取り組みスタート	都内初 東京都の自治体として初の賛同	75,000 枚 世田谷版ステッカーを配布
------------------------------	------------------------------	---------------------------------

2019年6月、東京都内の自治体として初めて賛同を表明した世田谷区と、子育てしやすい社会の醸成を目的に取り組みをスタートしました。世田谷版「泣いてもいいよ！」ステッカー75,000枚を配布したほか、オリジナルの缶バッジやキーホルダーを子育て支援に関わる方々が身に着けることで、ママ・パパへの精神的な支援にもつなげています。



世田谷区オリジナルのキーホルダーとステッカー

東急電鉄の3路線や「SDGsトレイン」にはコラボポスターを掲出。取り組みを紹介する特設ページでは、この活動をどう広げていくか、アイデアを募るフォームも設置しました。日本経済新聞、NHKニュース、NHK「首都圏ネットワーク」などでも紹介されています。



東急電鉄の3路線に掲出したコラボポスター



東急電鉄「SDGsトレイン」でのポスター掲示



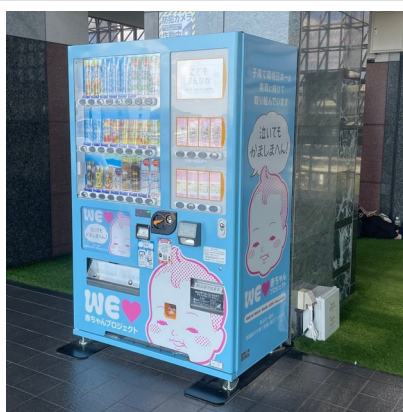
日本経済新聞に掲載

特設ページ

「世田谷区×WEラブ赤ちゃんプロジェクト」
<https://woman.excite.co.jp/welovebaby/setagaya/>

2021年11月～ 取り組みスタート	全国初 経済界・各種団体・行政等による 共同賛同	212店舗以上 ファミリーマートなどで ステッカーを配布
--------------------------------------	--	--

2021年11月、京都府が主体となり54団体で構成する「京都府子育て環境日本一推進会議」が、プロジェクトへの賛同を宣言しました。経済界・各種団体・行政等が共同で賛同するのは全国初です。京言葉で「泣いてもかましまへん！」と伝える京都限定ステッカーを府内212店舗のファミリーマートで無料配布したほか、駅や車内、バスなどの交通広告、商店街のフラッグなど、府内のさまざまな場所でプロジェクトをPRしています。



京都駅ビル内にも設置



WEラブ赤ちゃんプロジェクト応援自動販売機（左：新光悦村道の駅 右：紙おむつとおしりふきの購入パネル）©Disney ©Disney.
Based on the "Winnie the Pooh" works by A.A. Milne and E.H. Shepard.

おむつも買える！

「WEラブ赤ちゃんプロジェクト応援自動販売機」

2024年5月、「京都府子育て環境日本一推進会議」の一員であるダイドードリンコ株式会社とのコラボで登場。飲料と一緒に、ベビー用の紙おむつ（2枚入り）やおしりふきを購入できます。

ラッピングはプロジェクトのオリジナルデザイン。商品を買うと、京都コンピュータ学院の学生の声でプロジェクトをPRする音声流れます。売上の一部は、京都府の子育て関連事業に寄付されます。

設置場所：イオンモールKYOTO、京都駅ビル、京都市伏見区の複合スポーツ施設など、合計20台（内 おむつ対応13台）

まちのポストや郵便バイクにも

「泣いてもかましまへん！」ポスター

京都府と日本郵便株式会社の地域活性化包括連携協定に基づき、府内の郵便ポストや郵便バイクにプロジェクトのポスターを掲出。府内の郵便局などでは、京都限定ステッカーも配布しています。



左：郵便ポスト用ポスター



右：郵便バイク用ポスター

■ 京都府（つづき） 2/2

街中に広がる「泣いてもかましまへん！」



駅構内に掲出した京都限定ステッカーの告知



市バスのラッピング



車内広告



ファミリーマート店頭での告知



商店街のフラッグ



駅の柱広告



バスの車体広告



ベビーケアルーム「mamaro」

■ その他の自治体の活動

※賛同自治体の取り組みの一部を抜粋してご紹介しています。

長野県

長野県では、県版ポスターと2種類のステッカー（中信地域版を含む）を制作しました。



長野県版ポスター



長野県版ステッカー

福岡県筑後市

筑後市では、スーパーの店員や駅員がプロジェクトのバッジを身に付け、赤ちゃん連れの方を見守っていることを伝える取り組みを行っています。この取り組みはテレビで取材されたほか、読売新聞でも紹介されました。



読売新聞オンラインに掲載

千葉県佐倉市

2019年12月、千葉県内の自治体として初めて賛同した佐倉市では、市役所内の授乳室にポスターを掲示しているほか、自動販売機にも「赤ちゃんを温かく見守っています」というメッセージを掲出しています。この取り組みは、こども家庭庁の「令和5年度 地域少子化対策重点推進交付金 採択事例集」でも紹介されました。



佐倉市のポスター

賛同自治体一覧: <https://woman.excite.co.jp/welovebaby/administration/>

これから

プロジェクトメンバーより



「泣いてもいいよ!」という温かい想いに救われたのは、プロジェクトを立ち上げる前の私自身でした。1歳目の息子の育児と職場復帰の慌たじさで常に気を張り詰めて過ごしていたとき、偶然にも紫原明子さんから「赤ちゃんが泣いても嫌じゃありません! ってステッカーと一緒に作りたい」とメッセージをいただいたのです。その言葉は当時の私の心に深く響き、張り詰めていた緊張がふっとほどけたのを覚えています。

それと同時に、私自身、息子には公共の場で「どうか泣かないで」と心の中で願い外出しているけれど、人さまの赤ちゃんが公共の場で泣いていると「かわいいな、その泣き声に癒やされる」と思っていることに気づきました。だからこそ、「泣いてもいいよ!」という誰かの想いが存在していると知れることに意味があると思いました。ステッカーの読者プレゼントを実施すると、熱いメッセージがびっしり書かれたハガキが900通以上届き、目頭が熱くなったのを今でも覚えています。このプロジェクトは、すべての方に「泣いてもいいよ!」と思ってほしいから立ち上げたものではありません。むしろ、さまざまな気持ちがあるのは当然なことで、それを否定する権利は誰にもないのです。

だからこそ、ポジティブな想いをちゃんと世の中に見える化したい。その一心でこれまで運営してきました。おかげさまで、その輪はこんなにも大きなものとなりました。10年間このプロジェクトを続けてこられたのは、賛同してくださったみなさまのおかげです。この場を借りて心より感謝申し上げます。

「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」代表 石上有理



プロジェクトを立ち上げた当時、私は1歳になったばかりの子どもを育てる新米ママでした。子どもを連れて出かけた際、乗っていた電車の中で泣き出してしまい、周囲の視線を感じながら申し訳ない気持ちになった経験がありました。

そんな経験をしたばかりだったこともあり、「泣いてもいいよ!」という温かい気持ちが広がる世の中になつたらいいな、という想いでプロジェクトの立ち上げに参加しました。

最初は、ほんの少しでも同じ気持ちの人が集まってくれたら嬉しいな、という想いでしたが、想像以上にたくさんの方から賛同をいただき、「世の中、捨てたもんじゃないな!」と、とても嬉しく感じたことを覚えています。一方で、今でも印象に残っているのが、「赤ちゃんの泣き声に限らず、大きな音が心理的な負担になる」という方からいただいたご意見です。

赤ちゃんやママ・パパだけでなく、さまざまな事情や感じ方を持つ人たちが、お互いを思いやり、温かく見守り合える。そんな優しい社会になつたらいいなと思っています。その第一歩として、赤ちゃんが泣いていても「泣いてもいいよ!」と温かく受け止められる社会が広がっていったら、とても嬉しいです。

今では「プロジェクト、知っています!」とお声がけいただけるまでに広がりました。ここまで歩んでこられたのは、たくさんの方々が想いに共感し、支え、応援してくださったおかげです。10年間、本当にありがとうございます。そしてこれからも、優しい気持ちの輪がもっともっと広がっていくことを願っています。

「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」 村井麻衣子

プロジェクトの最新情報はこちら

「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」では、いまでも賛同とコメントを受け付けています。プロジェクトページや公式SNSで、最新の取り組みをお届けしています。



プロジェクトページのトップ画面

プロジェクトページ	https://woman.excite.co.jp/welovebaby/
公式Instagram	https://www.instagram.com/welovebaby_project/
公式X	https://x.com/Welovebaby_pj

公式Instagramで公開中

人気コミックライターによる「泣いてもいいよ！」実体験エピソードをマンガ化！

人気コミックライターが実際に体験した「泣いてもいいよ！」エピソードをマンガにして、公式Instagramで順次公開しています。

公開中

- まりげさん (@marige333)
- まぼさん (@yoitan_diary)



まりげさん「夜泣きシーズンの
ご近所付き合い」前編



後編



まぼさん「世間は意外に赤子に優しい」前編



後編

今後の公開予定

- ・モチダちひろさん ([@chitti_design](#))
- ・みやげさん ([@miyahahama](#))
- ・chiikoさん ([@gu_mama_san](#))

※続々追加予定